



# みなみせや

## 冬こそ読書を

副校長 弘部 奈実

今年の冬は暖冬かと思われましたが、朝夕の冷えは、体にこたえます。

題字に「冬こそ」と書かせていただきましたが、今日2月3日は立春で、暦の上では春です。待ち遠しい春はそこまで来ていて、薄手のコートに着替え外に出たくなるのですが、この寒さに負けてつい室内でなんとなく時間をやり過ごしてしまい、もったいないことをしたと思うことも度々です。

そんなもったいない時間をなんとなく過ごしそうになった時こそ読書です。

ある日、小学生だった私に叔母が、「もっと本を読んだらいいよ。」と言って、『小公女(フランシス・ホジソン・バーネット著)』という本を買ってくれました。つらい境遇にありながらも、明るく日々を過ごし乗り越えていく主人公に心打たれたことを覚えています。

それから、読書って楽しいと思うようになり、学校図書館で本を次々と借りて読みました。

なかでも、C.S.ルイスさんが書いた『ナルニア物語』との出会いは、それまでやみくもに本を読んでいた私に新しい読書の仕方を教えてくれました。最初に読んだ『ライオンと魔女』では、かくれんぼをしていた時に潜っていた大きなたんすの奥に知らない世界が広がる不思議な物語にわくわくしました。次にたまたま読んだ本が「前に読んだ本となんだか似ているなあ。」と感じました。それから、何冊か違う本を読んで、「あれ、これも似ている。」と、やっとこの物語がシリーズものであることに気づいたのです。それほどやみくもに読んでいたのです。

シリーズという分野に出合ったその時の喜びは、それからの読書生活に変化をもたらしました。「シリーズで読んでみたい。」「同じ作者の物語を読んでみたい。」と思ったら、次の本が楽しみでたまらなくなって、これまで以上に学校図書館に通うようになりました。

読書との出会いは人それぞれだと思いますが、きっと、それぞれに何か思い出があるのではないのでしょうか。

南瀬谷小学校の図書館では、子どもたちがたくさんの本に触れられるように、司書教諭や学校司書を中心に教職員全員で選書に関わったり、図書委員会の児童が飾りを作ったりしています。ものすごく傷んだ本は、たくさんの子供が読んだ証拠。残念なことに、貸し出されてなかなか戻ってこなかったり、失くなくなったりすることもあるけれど、それも、子どもたちが手に取って借りたからこそです。子どもたちは、お話ボランティアさんの読み聞かせもとても楽しみにしています。南瀬谷小学校には、本が好きな子がたくさんいます。寒い冬が、本との出会いを楽しむ時間になることを願っています。